

1月

はつらつ 尾久六っ子!



児童集会

何の集会かな? 木曜の朝は集会です! 特別活動担当 増岡郁子

毎週木曜日の朝、尾久六小では児童集会をしています。今年度は、なかよし班のみんなで「ジャンケン列車」をしたり、名刺交換ゲームをしたりするゲームもありました。委員会ごとの発表では、保健委員会がけがの手当てを教えてくれたり、図書委員会が読書の呼びかけをしてくれたり・・・各委員会ごとに工夫を凝らした発表を行っています。



高学年の子供たちは、自分の担当の集会が近づいてくると、休み時間や朝などいたるところで話し合いをしたり練習をしたりします。そうして自分たちの思いを伝える集会を協力して作り上げていきます。低学年はそんな高学年を「さすが高学年!」という眼差しで見つめます。

木曜日の夕飯時など、ぜひ「今日の集会はどうだった?」と声をかけてみてください!

算数

「つながり」を大切に

算数 吉田謙介

私が算数の学習を行う上で大切にしていることは、「内容のつながり」です。例えば、5年生の「三角形と四角形の面積」の学習には、4年生の「面積のはかり方と表し方」の学習内容が欠かせません。裏を返せば、一旦つまずいてしまうと、その先の内容も分からなくなり、算数自体がつまらないものだと感じてしまいます。しかし、だからこそ、一つ一つの内容をしっかりと定着させる必要があり、習ったことを基に新しいことを学んでいく面白さもあるのだと思います。そのため、授業で児童がつまずいているようなときには、その前の段階の内容に戻って確認するようにしています。いよいよ3学期を迎えます。それぞれの学年としてまとめに入っていく時期です。分からないことを残したままにしないよう、しっかり指導していきたいと思います。

音楽

リコーダーの「ソ」が出ない!!



音楽 井上奈々

音楽では、鍵盤ハーモニカやリコーダーなどを使って器楽の学習をすることがあります。美しい音でスムーズに演奏ができることだけでなく、どんな気持ちや様子を伝えたいのかを考え、工夫して表現することを大切にしています。苦手な楽器や難しい曲があっても、繰り返し練習したり友達に教えてもらったりしながら、努力して乗り越えることも学んでほしいと考えています。

最近、リコーダーの学習を進めていると、初歩の「ソ」の音でつまずく子が多くなってきています。特に左手の薬指の穴をふさぐ時、あちこちにすきまができてしまい「ピョ～」という悲しい音が…。以前と比べると、その割合が年々増えてきており、指の動きや指先の感覚が鈍っていることを感じます。授業では、指先を動かす遊びを取り入れて特訓中です。ご家庭でも（ご近所迷惑でなければ…）きれいな「ソ」の音が吹けているか、ぜひお子様と一緒に聴いてみてください。

図工

展覧会を終えて、その後・・・

図工 武田恵美

昨年11月の展覧会を終えて、児童の中にたくさん吸収されたイメージが2学期末の作品づくりに反映されていました。日頃から図工の作品は廊下への掲示をしていますが、やはり行事として取り組んだり、励ましの言葉をたくさんもらったりすることが印象深く残るものであり、このような経験や体験が発想の素地を養っているのを感じました。図工科ではこれからも、もっともっと豊かな発想や創意工夫を促していきたいです。



保健

睡眠の工夫に使っているものは・・・

養護教諭 五十嵐 順子

2学期の初めに、尾久地区の全部の小学校でとった睡眠のアンケートに、「睡眠について工夫していること」を書いてもらいました。すると意外と多かったのが、寝る前に、「テレビを見る」「ゲームをする」「動画を見る」「DVDを見る」「スマホで音楽を聴く」などの回答でした。「見ているうちにだんだん眠たくなって寝てしまう」「好きなことをしてスッキリして寝る」という子供たちなりの理由のようですが、電子機器を使うことで目が疲れたり、かえって脳が興奮して寝つきが悪くなることが心配されます。子供たちの生活にも深く関わりつつある電子機器ですが、みなさんはどんな使い方をしていますか？

寺子屋

～ほどよい支援を目指して～

特別支援教育補助員 安西 朋恵

今年度の寺子屋は、算数の吉田先生と前年度まで図書館司書だった飯田先生の3人体制です。寺子屋開始の前後には、その子に合った力の付け方を、担任の先生方に細かく教えていただいたり、寺子屋での様子をお伝えしたりして、打ち合わせをしています。その中で、気にかけていることは、『必要以上に手をかけない』ということです。子供が考えるよりも先に、大人が手をかけてしまうと、本来、伸びるはずの子供の芽を摘んでしまうからです。困っているとき以外は、見守りだけの場合もあります。『自分で何とかしよう』と気持ちが定まれば、集中力も高まります。たくさん考え、答えを導き出せたときの達成感や充実感を、たっぷり味わって欲しいと願っています。

給食

～残さず食べる大切さ～

栄養士 佐々木 冬萌

毎年、2学期の後半から3学期にかけて、尾久六小の給食の食べ残しがグッと減ります。給食準備が早くなったことや、決められた時間内に食べることができるようになるからです。しかし、個人差が見られるのもこの時期です。なぜ、残さず食べるのが大切なのでしょう？それは、たくさん理由があります。

☆食事は生き物の命をいただいています。感謝の気持ちをもって食べて欲しいです。

☆食べ残しはゴミとして捨てられます。食品ロスも大きな環境問題の一つです。

☆心身の成長に食事(栄養)は必要だから、偏食せず苦手なものも食べて欲しいです。

